九学通信

https://kyugaku.ed.jp/

"Strive to discipline yourself and be a helpful,caring person."

Kyugaku Journal

(1) 2026年2月20日　　第144号

発行所／九州学院　〒862-8676 熊本市中央区大江5丁目2-1　TEL(096)364-6134　FAX(096)363-2576
発行人／中島康文　編輯人／森真紀　印刷所／㈱河田印刷　熊本市南区近見8丁目5-105　TEL(096)353-1049

2025年度 年間聖句

あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。(マタイ5章16節)

Your light must shine before people. (Matthew 5:16a)

「愛されている、あなたへ。」

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

－ヨハネ3章16節－

九州学院院長　　中島 康文

「卵が先か、ニワトリが先か」、どちらが先とも言い難い時に使われる慣用句です。「どちらが先に好きになったのですか？」と聞かれると、「私が先」と言うご夫婦は少なくて、大抵は「自分が惚れられた」と自惚れてしまうことが多いかもしれません。私ですか？・・・ここでは止めておきましょう。

12世紀の聖人フランチェスコの有名な「平和の祈り」の中に、「慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを、私が求めますように」という一節があります。彼がそのように祈るのは、彼自らが「既に神に慰められ、理解され、愛されている」という確信があったからでしょう。だからこそ「隣人を慰め、理解し、愛する者になること」を神に祈るのです。聖書には、創世記から始まる膨大な神の出来事(神の歴史)が記されていますが、どこを切り取っても神が人間に何をしてくださったかを知ることができます。換言すれば聖書の全てから「私たちは神に愛されている」という宣言を聞くことが出来るという事でもあります。

「愛されている私」であることを知り、隣人に寄り添う歩みをこの年も行えるように祈っています。主の平安を祈っています。

「創立者の福音宣教はとこしえに生きる」

ブラウン・メモリアル・チャペル 献堂100周年記念礼拝

藤本誠先生(九州学院歴史資料・情報センター長)が特別説教



記念礼拝の様子(左上画像は献堂当時のチャペル[当初は講堂と呼ばれていた])

10月31日㈮午前8時30分より九州学院ブラウン・メモリアル・チャペル(1925年10月30日献堂式挙行)において「献堂百周年記念礼拝」が厳かに執り行われました。チャペルにはご来賓の皆様をはじめ、学校関係者、教会関係者に加えて、各クラスの代表生徒と敬愛会(高校宗教部)メンバーが参集しました。

礼拝の特別説教を九州学院百周年記念歴史資料・情報センター長の藤本誠先生が『ルーセランミッションのシンボル 九州学院ブラウン・メモリアル・チャペル献堂百周年を記念して』との説教題で行いました。藤本先生はチャペルに関する歴史エピソードを交えた説教の結びで「本日10月31日、宗教改革記念日にブラウン・メモリアル・チャペルは献堂百周年を迎えました。ブラウン博士の福音宣教は、ルーセランミッションのシンボル、九州学院ブラウン・メモリアル・チャペルとともに今も、そしてとこしえに生きるのです」と力強く語られました。

節目となる献堂百周年記念礼拝を九州学院各所(代表以外の生徒は各教室でオンライン参加しました)でともにすることができましたことを主なる神さまに感謝いたします。

なお、藤本先生は九州学院在職時に『九州学院百年史』を執筆・編纂され、現在も歴史資料・情報センター長としてセンターウェブサイトに多くの情報や資料をアップロードされています。学院の歴史エピソードや逸話を紹介する『歴史余話』シリーズには、チャペルの歴史や学院の創立者であるブラウン博士の足跡など第三十六話(2025年12月現在)まで掲載中です。センターウェブサイトへは九州学院ホームページにありますバナーから進むこともできます。皆様もぜひ訪問と閲覧をお願いいたします。

全国優勝者の栄誉を称える

熊本県私学振興大会で表彰

11月21日㈮、KKRホテル熊本において第49回熊本県私学振興大会が開催されました。この会は熊本県私立中学高等学校保護者会と熊本県私立中学高等学校協会の主催で、熊本県内の私立学校の振興発展を目的に毎年開催されているものです。

大会行事では主催者挨拶に続き、木村敬熊本県知事、高野洋介熊本県議会議長、藤川隆夫熊本県私学振興議員連盟会長による祝辞、要望書と決議書採択の後、2024年10月～2025年9月の1年間に全国優勝等を成し遂げた団体・個人への表彰が行われました。

今回、九州学院中学校・高等学校の表彰者は以下のとおりです。

中学校団体の部優勝

■剣道部

●第55回全国中学校剣道大会男子2連覇

小宮　尚通(3年)
中司　健太(3年)
北川　大地(3年)
吉村虎之助(3年)
坂本　皇芯(2年)
平川　航成(2年)
森　雄々士(2年)

■弓道部

●第22回全国中学生弓道大会・JOCジュニアオリンピックカップ弓道大会男子

清　充寿(3年)
荒尾　奈音(3年)
秋元　悠希(3年)
河村　鴻虎(2年)

高校個人の部優勝

■自転車競技部

●JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会男子U17ケイリン

正木　颯人(1年)

■女子陸上競技部

●第23回全国障害者スポーツ大会陸上競技女子年齢・等級別2種目2連覇

〔100m(大会新)〕
〔200m(大会新)〕
原　かのん(2年)
※出場時は1年

中学校個人の部優勝

■剣道部

●第55回全国中学校剣道大会男子

小宮　尚通(3年)

■ボクシング

●第4回全日本Uジュニアフレッシュボクシング大会女子

〔51kg級〕
江村　明音(3年)
※出場時は2年

●第12回全日本Uジュニアボクシング王座決定戦女子

〔51kg級〕
江村　明音(3年)

顧問・監督表彰

■剣道部

米田　敏郎(教諭)

■自転車競技部

安達健太郎(教諭)

■女子陸上競技部

貞永　健剛(教諭)

■弓道部

山下　悠真(教諭)

※私学振興大会とは別に学院として今年度全国優勝祝賀会を2月20日㈮に実施予定です。

院長室だより

院長　中島　康文



昨年末、九学で初めてのクリスマスを新鮮な気持ちで一緒に過ごさせてもらいました。中でも敬愛寮のクリスマス礼拝は新鮮でした。

礼拝そのものは特別ではないのですが、讃美歌の「荒野の果てに」を歌っていた時、各節の「グロリア・イン・エクセルシス・デオ(いと高き神に栄光あれ)」に差し掛かると、天井が落ちて来るのではないかと思ってしまうくらいの大きな声で皆さんが歌うのです。礼拝後に聞くと、「伝統なんです」と笑顔で教えてくれました。彼らの歌声を聞きながら、私は「すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った」(ルカ2：13)の聖句を思い浮かべました。「天の大軍が歌うのだから、あれくらいの迫力があったのだろうなぁ」と、むしろ教えられたような気がしました。彼らの記憶にも、クリスマスの思い出の一つとして刻まれるのでしょうね。

「グロリア」の思い出は寮生だけなのかもしれませんが、今も九学の思い出として、前の讃美歌(教団出版局)の「いつくしみ深き」が歌い継がれていると聞きました。1節の最後は「などかは下ろさぬ　負える重荷を」と終わりますが、現在九学で用いられている讃美歌では「重荷のすべてを　み手に委ねよ」です。「悩みも苦しみも神様にお話(お祈り)したのだから、重荷を下ろしましょう」そんな歌詞です。皆で歌いながら、互いに慰め励まし合う「九学健児」だからこそ、今も同窓会でも歌い継がれているのだと想像しています。いつかどこかの同窓会で、私も一緒に大きな声で歌いたいですね。

2026年が素敵な年になりますように祈っています。

学校長挨拶



中高校長　室永 芳久

平素より本学院の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年末には、インフルエンザの流行が本学院でも猛威を振るい、幾つかの学級において学級閉鎖等の措置をせざるを得ない状況もありました。コロナ禍以降、学校教育の現場において、感染力の高い感染症へ如何に対応していくか、気の抜けない状況でございます。今後とも迅速に対応していく所存です。

さて、学校も三学期を迎え、生徒さんたちにとっては、各学年の仕上げの時を迎えております。特に中学三年生、高校三年生にとっては、進路決定において重要な時期となります。どうか、これまでの努力の成果を遺憾なく発揮できるよう、心からお祈り申し上げる次第です。また、一・二年生の皆さんも、次学年に向けて良いスタートが切れるよう、最後の学期を落ち着いて大切に過ごしてほしいものです。

学院としましては、二度の中学校入試、また二度の高校入試を終え、多くの受験生を与えられたことに深く感謝申し上げます。ご承知の通り、現在、教育界を取り巻く環境は目まぐるしく変化しておりますが、そうした中でも、変わらず九州学院を支持して下さる受験生の皆さんが多くいらっしゃること、在校生の活躍もさることながら、多くの同窓生の皆様のお支えあってのことと深く感謝申し上げます。

今年度が終了しますと、九州学院は、いよいよ116年目の歩みをはじめます。120年目の節目が目前に迫る中、在校生の学校生活のさらなる充実、受験生の皆さんの大きな期待、お支えいただいている同窓生をはじめとする関係者の皆様のご厚意に応えることのできる学院であり続けられるよう邁進していく所存です。

「九学祭」大盛況！

校内発表（10月30日(木)）

総合体育館で実施しました。発表は出演順で以下のとおりです。①高校ボランティア部発表『戦後80年から学ぶ命の尊さ』、②カリフォルニア研修旅行参加者報告、③高校生スネアドラム独奏、④高校チアダンス部演舞、⑤高校空手道部演武、⑥高校生ダンス披露、⑦高校吹奏楽部演奏。

一般公開（11月1日(土)）

爽やかな秋晴れの好天に恵まれ、開場時から閉場時までたいへん多くのご来場者で大盛況でした。クラスや学年、部活動、育友会、同窓会などの各出展団体は、それぞれ趣向を凝らした企画や販売を実施し、九州学院での活動の成果を遺憾なく発揮していました。午後に行われたステージ発表にも多くの観衆が集い、出演者は声援に応える見事な発表で会場を盛り上げました。

今回の一般公開も多くの方々のご理解とご協力をいただいて成功につなげることができました。関係者一同厚く御礼申し上げます。








高校　冬季開催全国大会7競技に選手が出場

～チアダンスとボクシングで準優勝など活躍・健闘が光る～

【団体競技・種目】

チアダンス部は11月29日(土)～12月1日(月)に東京体育館で行われたAll JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2025 高校生編成Pom部門Small準優勝の活躍でした。

陸上競技部は12月21日(日)に京都市で行われた男子第76回全国高等学校駅伝競走大会に出場。雨天の中、レースは序盤から超高速ペースで展開。九州学院も各選手が懸命の力走で襷を繋ぎ、2時間4分35秒で出場58校中総合16位と健闘しました。

バスケットボール部は12月23日(火)～29日(月)に都内2会場で行われたSoftBankウインターカップ2025に出場。1回戦は78対50で埼玉栄高校に、2回戦は82対56で高松商業高校に勝利。3回戦は今年度インターハイ優勝の鳥取城北高校に76対77で惜敗しましたが、激闘を労う大きな拍手が選手たちに送られました。

弓道部は12月23日(火)～25日(木)に静岡県武道館で行われた第44回全国高等学校弓道選抜大会に出場。男子団体戦で決勝トーナメント2回戦まで勝ち進み、ベスト16に入りました。

ラグビーフットボール部は12月27日(土)～1月7日(水)に東大阪市花園ラグビー場などで行われた第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場。1回戦で兵庫県代表の強豪、関西学院高等部と戦い、敗れました。

【個人競技・種目】

12月17日(水)～21日(日)に愛知県西尾市で行われた第4回全日本女子ジュニアボクシング大会に選手二人が出場。ウェルター級で平井富和子選手が1年生で準優勝の大健闘でした。

1月23日(金)～26日(月)に栃木県宇都宮市で行われた第75回全国高等学校スケート競技選手権のフィギュアに選手一人が出場しました。

ご声援、ご支援をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

芸術鑑賞『ジャズ&ラテン・オーケストラ』

10月31日(金)、九州学院総合体育館において中高は芸術鑑賞の時間をもちました。九州学院の芸術鑑賞は慣例で演劇と音楽を交互に鑑賞しています。今年度は音楽鑑賞として、楽団『翼』の皆様をお招きして実施しました。

楽団『翼』は２００８年に結成されたプロ集団のジャズ&ラテン・オーケストラで、メンバーの多くがコンサートやライブなど、それぞれプロの演奏家として活躍されています。

この日のステージでは前半がジャズを中心に、後半がラテン音楽を中心に、計十数曲に及ぶ名曲の数々が披露されました。演奏を聴く生徒たちもリズムに合わせて手拍子を入れるなど、舞台と客席が一体となった素敵な音楽鑑賞となりました。

プログラムの中には生徒や教職員参加型の企画もあり、ラテン音楽演奏体験コーナーでは希望者から選ばれた中学生と高校生がメンバーのご指導のもと、楽団の皆様と即席での合同演奏をさせていただく機会を得ました。

幕間や終演後にメンバーやスタッフの方に生徒が質問する姿もあり、貴重な時間を過ごすことができました。




「校内駅伝」中高各クラス代表選手が襷を繋ぐ

～級友・教職員・保護者が熱い声援を送る～

1月29日(木)、えがお健康スタジアムを発着とするコースで九州学院校内駅伝大会が開催され、中学校1年から高校2年までのクラス代表選手が出場しました。

女子の部、男子の部の順（中高一斉で実施）でレースが行われ、選手は各人の汗と思いが染み込んだ襷を繋ぎ、スタジアム内ではクラスメートが、沿道では保護者が選手に熱い声援を送っていました。

大会の準備や運営では陸上競技部と女子陸上競技部の部員が各所で奮闘し、男子の部では毎回恒例となる、部員がコースを併走して選手を鼓舞する様子が各所で見られました。スタジアムは大きな歓声で満ちていました。



「神さまがともにいてくださる」クリスマス行事

①点灯式（11月28日(金)）

九州学院西門そばでクリスマスイルミネーション（育友会提供）点灯式が行われました。式では中高吹奏楽部や敬愛会（高校宗教部）など多くの生徒が奉仕や準備にあたりました。

原之薗浩育友会会長とこども園園児代表がスイッチを押すと、夕闇の中に鮮やかな灯が浮かび上がりました。クリスマスの希望と喜びをイルミネーションの光で伝えられることを願い、参加者一同は聖書の御言葉に思いを馳せつつ、心を込めて讃美歌を歌いました。

②礼拝等（12月18日(木)）

第1部の礼拝では、中島康文院長が中高生徒と教職員に向けてクリスマスメッセージを語りました。また、礼拝の中でクリスマス献金をささげました。（本頁左下参照）

第2部の祝会では、九州学院みどり幼稚園（こども園）園児による降誕劇（13日(土)上演）の映像を鑑賞しました。

祝会終了後には中高各生徒会企画で楽しい時間を過ごしました。

また、これらの学校行事の他にも、敬愛寮（男子寮）のクリスマス礼拝が12月10日(水)に九州学院ブラウン・メモリアル・チャペルで行われました。救い主であるイエスさまの御降誕をお祝いする意味を学ぶ機会が九州学院では継承されています。





【献金の感謝と報告】

２０２５年に行われたクリスマス礼拝の献金は計３５５,１８９円でした。感謝して報告いたします。この献金は全額を、九州学院が継続して支援を行っておりますチャイルドスポンサーシッププログラムなどに届けさせていただきます。皆さまのあたたかいご支援に感謝申し上げます。

同窓会だより

ブラウン・メモリアル・チャペルで「二十歳を祝う会」を開催



1月12日(月・祝日)、(同窓会若手の会主管)が開催されました。この会は、二十歳を迎える卒業生を母校に迎えて祝福し、記念礼拝を中心に恩師・先輩・家族でお祝いする心のこもった集まりです。

会には今年二十歳を迎えるS76回・J74回の卒業生約200名のほかにご家族、恩師を中心に約300名が参列し、齊藤基聖書科主任の司式で厳粛な祝福礼拝が行われました。参列者は声高らかに讃美歌を歌い、中島康文九州学院長のお祝いの説教に熱心に耳を傾けていました。礼拝の後に在学時の担任の先生や山口章太若手の会会長などから祝辞を頂戴し、それに応えて横溝正泰氏(元九州学院高校生徒会長)が代表して謝意と決意を述べました。最後に山崎雄三若手の会副会長の締めの挨拶で無事に会を終了し、その後、全員で記念写真撮影を行いました。新成人の皆さんの今後のご健勝を心からお祈り致します。

令和の三冠王が新天地へ



プロ野球選手の村上宗隆選手(S70回・2018年卒)は、ヤクルトスワローズからポスティングシステムで米大リーグの古豪シカゴホワイトソックスと契約合意しメジャーへの移籍が決まりました。

2018年に卒業と同時にヤクルトに入ると、2019年には新人王に輝き3年目からは開幕戦から4番三塁手。2022年には王選手の史上最多記録をぬりかえる56本塁打を放ち史上最年少の3冠王となりました。昨年は故障で前半戦は戦列を離れましたが1軍復帰後に56試合の出場数ながら22本塁打を記録しました。

2大会連続で出場を決めたWBCと、新天地でのこれからの活躍に期待がかかります。



WBA世界王者三度目の防衛成功 堤聖也氏(S66回)

ボクシングWBAバンタム級王者・堤聖也選手(角海老宝石/S66回・2012年卒)は、12月17日に東京・両国国技館で同級暫定王者ノニト・ドネア選手(フィリピン)とタイトル戦を行い、壮絶な打ち合いの末に判定勝ちし同級2度目の防衛を果たしました。試合前半は挑戦者の猛攻を受けた王者が劣勢で4回には効果的な一打を浴びてふらつく場面もありました。しかしその後は壮絶な打ち合いを繰り広げながら徐々に盛り返し、結果的には判定2−1の僅差での勝利となりました。王者の堤選手は「ギリギリだった。ドネア選手のレジェンドの左パンチフックは強く、負けの流れとなったがなんとか頑張れた」と試合を振り返りました。



LAD山本選手の通訳が母校訪問 園田芳大氏(S48回)

米大リーグのワールドシリーズで最優秀選手(MVP)に輝いたドジャースの山本由伸投手の専属通訳の園田芳大氏(S48回・1996年卒)が一時帰国し、12月8日に母校を訪れました。この日は3号館の多目的ホールに集まったアスリートクラス(各学年2クラス)の生徒達に、現在のアメリカでの生活やこれまでの経験等を話し「将来の目標に向かって近道でなく回り道であっても堅実に努力を重ねるように」と熱いメッセージを送りました。

商工会主催・主張発表大会で優勝 森永一美氏(S54回)

南小国町議会の森永一美氏(S54回・2002年卒)は全国商工会女性部連合会主催の主張発表大会の熊本県予選で最優秀賞と県知事賞を受賞し、7月に福岡で開かれた九州大会に県代表として出場しました。同大会は女性部活動の活性化や地域振興発展に資することを目的とするものです。「美しい里山を子ども達に繋ぐために」の演題で10分間の熱弁でしたが惜しくも全国大会には進めませんでした。森永氏は2019年から南小国町の唯一の女性議員として4人の子供も育てながら活躍中です。なお、同町の高橋周二町長も九州学院の卒業生(S43回・1991年卒)です。今後のさらなるご活躍をお祈りします。



ニューイヤー駅伝等で存在感を発揮 鶴川正也氏(S73回) 井川龍人氏(S71回)



鶴川正也選手

2026年1月1日に「第70回全日本実業団対抗駅伝競走大会」が群馬県庁発着7区間(100キロ)で開催され、創部10年目のGMOインターネットグループが初優勝しました。入社2年目の九学OBのルーキー鶴川正也選手(S73回・2021年卒)はこのレースでアンカーを任され見事に歓喜のゴールテープを切りました。



井川龍人選手

また、注目の旭化成の井川龍人選手(S71回・2019年卒)は最終7区(15.6キロ)で区間新記録をマークする大健闘でした。

なお、井川選手は、昨年7月に行われた「日本陸上選手権大会」で5000メートルを制し、1月10日(土)にタラハシー(アメリカ)で開催された「タラハシー2026世界クロスカントリー選手権大会」にシニア男子10kmの日本代表選手として出場し、世界の大舞台で奮闘しました。

敬愛寮生らとのBBQ交流会

12月13日(土)、九州学院のキャンパスにある敬愛西寮の前庭において、前年度に続き2回目の同窓会主催「敬愛寮生らとのBBQ交流会」が開催されました。

この会は、親元を離れて学業や部活に励んでいる敬愛寮生らの昼食にご馳走を提供して元気付けようと、九州学院同窓会、育友会が企画したものです。会場には寮生の他にグラウンドの部活生等約200人が、バーベキュー・ラーメン・唐揚げなどのご馳走を味わいながら歓談し大いに賑わいました。今回も食材の他必要品等のすべてを同窓会有志の方々からご提供を頂き、キッチンカー(味千ラーメン)にもご登場頂きました。準備や調理や後片付けまで、育友会、教職員、同窓会有志の皆様にお世話を頂きました。



「大王のひつぎ実験航海」20周年の記念イベント
～九学同窓生の二人が中心的役割～



下川伸也水産大校長



彫刻家髙濱英俊氏

今から20年程前の2005年夏、「大王のひつぎ実験航海」という一大イベントが行われました。これは近畿地方の大王天皇の石棺に九州の阿蘇馬門石が使われた理由を探ると共に巨石の海路運搬の可能性を実証することを大きな目的としたものでした。復元した古代船「海王」が7トンの石棺を載せた「有明」・「火の国」を曳いた船団は、7月24日に宇土港を出航、有明海から北部九州沿岸、関門海峡を通って瀬戸内海、明石海峡を経て大阪湾へまでの1006キロを手漕ぎで進む航海に34日間で成功したのです。実はこの古代のなぞを解明するためのプロジェクトの計画責任者は下川伸也氏(S31回・1979年卒 / 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校校長)で、大航海の主役の石棺を制作したのは彫刻家の髙濱英俊氏(S28回・1976年卒)の九学OBコンビだったことは素晴らしいことです。昨年、2025年10月18日に宇土市民会館大会議室において「大王のひつぎ実験航海20周年記念講演会・パネルディスカッション」が開催され、この二人も参加しました。パネリスト下川氏はこの偉大な事業を振り返り、古代の石棺輸送の意義などについて語りました。



髙濱氏制作の石棺

地域・職域などの同窓会

11月22日	九学天草会
11月29日	牛深九学会
12月13日	義務制教職員同窓会
12月27日	阿蘇中部同窓会
1月15日	経済交流会
1月30日	市役所同窓会

(学級、学年、部活の同窓会などを除く)

○1月23日、「新卒業生クラス代表と同窓会役員の懇親会」が会議室で行われ、新たに卒業して同窓会の一員となる生徒達と同窓会役員の交流の機会を持ちました。

○10月17日、1号館会議室において「奨学生・給費生を励ます会」が開催され、中高生(38人が有資格者)・同窓会役員はじめ学院関係者が出席しました。

開会のお祈りに続いて、三浦陽二同窓会副会長らが激励の言葉を送り、これに応え奨学生・給費生が一人ずつ自己紹介と決意表明を行いました。



「九学同窓会だより」編纂人・小手川勲

北朝鮮拉致被害者 松木薫氏(S24回)の救出を

松木氏は1980年スペイン留学中に拉致され、現在も北朝鮮に抑留。弟の信宏氏(S43回)が拉致被害者家族会で活動中。

九州学院大同窓会 総会・懇親会
～歴史を見つめ、未来に乾杯～

日付：2026年4月17日(金)
場所：熊本ホテルキャッスル

創立者の精神を覚える会講演
『自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ』
九州ルーテル学院理事長・九州学院第8代院長　内村 公春 先生



九州学院では1月19日を学院の創立記念日（1910年同日設立認可、開校は1911年）と定め、毎年この時期に記念講演会を開催しています。本年は1月19日㈪午後に「創立者の精神を覚える会講演」を、九州学院第8代院長（在任：2002年4月～2013年3月）を務められた内村公春・九州ルーテル学院理事長を講師に迎え、『自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ』の演題でご講演をたまわりました。

内村先生は生徒と教職員に向けて「九州学院の教育は『平和を願う教育』です。皆さんに伝えたいことは、九州学院の校訓『敬天愛人』と教育目標『自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ』の素晴らしさです。これは聖書にある『世の光・地の塩を目指す生き方』すなわち『共に生きること』です。皆さんはぜひこの教育目標を見ながらどのような生き方をしたらいいのか、九州学院で学ぶというのは何なのかということを心にしっかり受けとめてほしいと思います。私は九州学院で院長・校長を務めたときに『来てよかった（在校生）、やってよかった（保護者）、出てよかった（卒業生）、働いてよかった（教職員）』をスローガンとしました。皆さんにはそのような学校づくりをそれぞれの立場から進めていってほしいと、私は心から願っています」と熱弁されました。

講演会終了後、中学校1年生と高校1年生は、九州学院創立百周年記念体育館前にある遠山参良・九州学院初代院長記念碑の傍らで中島康文院長より遠山先生について学ぶときをもちました。

ミッションウィーク講演『クリスマスの明と暗』
学校法人九州学院　中島 康文 院長



12月16日㈫、九州学院3号館ホールと各教室（中継）で2025年度ミッションウィーク講演を実施しました。

今回の講師は2025年7月に九州学院第10代院長に就任しました中島康文先生で、『クリスマスの明と暗～降誕劇（ページェント）の背景を探る』の演題でご講演をいただきました。

中高生徒および教職員に講演を行いました。

講演の冒頭で、中島院長がチャプレンを務める荒尾市のシオン園保育所で2023年に上演された降誕劇の映像が上映されました。

中島院長は新約聖書「マタイによる福音書」と「ルカによる福音書」から、降誕劇の各場面（①受胎告知、②ベツレヘムへの旅と宿探し、③イエスの誕生、④羊飼いと天使、⑤博士たちと星、⑥キリストへの捧げもの）について、その背景にあるものを含めて丁寧に解説しました。その中で中島院長は「聖書を丹念に読んでいくと、クリスマスの場面には暗い部分がたくさんあります。そこをしっかり見ることで、クリスマスの明るさ（喜びなど）がよく理解できるのです」と説明しました。

講演の結びで中島院長は「皆さんは一人も漏れることなく、全員が『良いたまもの』を持っています。そして全員が『神さまが認めておられる存在』であるのです。イエスさまの誕生は当時の人々が必要としていませんでした。しかし、神さまは私たちに必要であるとしてイエスさまをくださったのです。神さまは皆さんと共にいて共に困難を乗り越えてくださる方、愛・喜び・希望をくださる方であることを、クリスマスのときにおぼえてください」と語りました。

育友会活動報告（10月～1月）

①秋の講演会を開催



11月20日㈭、九州学院ブラウン・メモリアル・チャペルにて、育友会秋の講演会を開催しました。今回の講師として九州学院卒業生で北朝鮮による拉致被害者である松木薫さん（J22・S24）の弟でいらっしゃる松木信宏さん（J41・S43）をお迎えして『兄との再会を願って』の演題でご講演をたまわりました。

ご講演の結びで松木さんは「拉致問題がこれだけの年数が経過して未だに解決しておらず、もどかしいとの思いもあるのですが、私としてはこれまで積み重ねてきたものをいかしながらこれからも活動を続けていきます。そして、それらを無にすることがないように私にできることを精一杯取り組んでいきます。次にこの九州学院で行われる集まりには私が登壇するのではなく、無事に連れ帰ることができた兄自身がここに立ち、『帰ってまいりました！』と元気な姿で皆様に御礼のご挨拶ができるような状況をつくり出していきたいと思います」との決意を語られました。

松木薫さんは1980年に留学先のスペインで拉致被害者となり、現在も北朝鮮に抑留されています。松木信宏さんは拉致被害者家族会に参加して、薫さんを含む全被害者の救出に尽力されています。

②九学祭に出店参加



11月1日㈯、九学祭の一般公開に際して、中学校（合同）・高1・高2・高3・執行部の5団体が特製グッズの販売や食バザーを実施しました。どの模擬店も開店時から多くの客を集める盛況ぶりでした。

③クリスマス行事支援



毎年好評を博していますクリスマスイルミネーションを本年度も提供し、点灯式にも出席しました。また、中高生徒会役員が企画したクリスマスイベントを、育友会が協賛として支援いたしました。

④校内外行事への参加

11月21日㈮、熊本県私立中学高等学校協会と熊本県私立学校保護者会が主催してKKRホテル熊本で開催された第49回熊本県私学振興大会に執行部と学年長など約20人が参加しました。大会行事の中で行われた全国優勝者表彰（1面参照）では優勝の偉業を称える大きな拍手を送りました。

この他にも同窓会主催による敬愛寮生への行事や、12月14日㈰にジェーンズ邸広場で行われたくまもと高校生フェスティバル（本面記事参照）などの行事に参加協力しました。

⑤共通テスト受験激励



12月19日㈮、大学入学共通テスト受験生の激励会を開催し、原之薗浩会長が激励の言葉をかけて、育友会提供「合格祈念グッズ」を受験生に贈呈しました。

※中学3年生全員にも別途贈呈しています。

⑥高3卒業DVD贈呈

九州学院高校を卒業する高校3年生の皆さんに、今回も育友会が卒業記念DVD『S78回生の軌跡』を制作しました。高校生活3年間を映像や写真で振り返る構成となります。

※贈呈は2月下旬予定

⑦朝のあいさつ運動

2学期は体育祭と九学祭が行われた9月と10月に役員有志が輪番で午前7時半頃から約1時間、登校する子どもたちに挨拶や声かけを行いました。1月23日㈮朝は高校3年生最終登校日にあわせて高校3年役員があいさつ運動に参加しました。

「戦後80年」から考えるスタディ・ツアー
～ボランティア部が平和学習で知覧を訪問～

2025年は日本において「戦後80年」そして「原爆被爆80年」の節目の年でありました。

1945年6月には沖縄戦の終結、8月には広島と長崎への原子爆弾投下など戦時下においては数多くの尊い生命が戦争とその混乱の中で失われました。

終戦以降80年間、さまざまな問題と課題を抱えながらも日本は戦争の当事国となることなく「平和を享受」してきました。この節目の年にあたり、高校ボランティア部では今一度部員一人ひとりに真の平和の尊さや戦争の実相を学ぶ機会を持つためにスタディ・ツアーを企画し、約30人の部員有志と引率教師4人が、鹿児島県南九州市知覧を体育祭代休日の9月29日㈪に訪れ、研鑽の場に臨みました。

参加者一行は初めに知覧特攻平和会館を訪問。語り部さんからの講話では、資料見学ではわかりにくい当事者の思いやエピソードを拝聴して、より深い学びの機会を得ました。

その後、館内の展示資料を神妙な面持ちで観覧した部員たちは、知覧町内にあるホタル館富屋食堂に移動。現在は記念資料館となっている食堂内で資料を見ながら当時の人々の思いに自身の思いを重ねて学んでいました。

帰校後、九学祭では代表生徒が概要を全校生徒に発表しました。

第14回くまもと高校生フェスティバルに参加
～ボランティア部・放送部・チアダンス部が活躍～



12月14日㈰、熊本市水前寺江津湖公園ジェーンズ邸広場において第14回くまもと高校生フェスティバルが盛大に開催されました。このイベントは熊本県内の主に私立高校に通う高校生有志が中心となって実行委員会を立ち上げ、毎年テーマを決めて高校生の視点で考えて訴えていくとともに、高校生のいきいきとした姿を見ていただくことでそれぞれの場所で輝いている高校生がいることをアピールする目的で毎年この時期に実施しています。

九州学院高校も学校長承認のもと毎回多くの生徒が協力を行っており、今回も放送部が司会進行を、チアダンス部が華麗な演舞をそれぞれ行いました。また、ボランティア部有志は実行委員として企画から運営まで重責を担いました。フィナーレを飾る「群舞」では、本校生徒を含む200人ほどの高校生が見事なダンスを披露して、観衆から感動と応援の意を表する盛大な拍手が送られていました。

なお、今回のフェスティバルでは生徒たちの他に、九州学院育友会有志協賛として会員（保護者）の皆様による出店参加があり、こちらも多くのお客様で終始賑わっていました。

来年度もくまもと高校生フェスティバルは開催予定です。ご来場をお待ちしています。

「献血キャンペーン」に生徒・教職員が協力！



12月17日㈬、熊本県赤十字血液センターの皆さまが来校され、毎冬恒例の「献血キャンペーン」が開催されました。九州学院高校の生徒と教職員は長年にわたって献血に協力をしてきた実績があり、今回も呼びかけに応えた高校3年生を中心に約80人が献血を行いました。現在でも全国的に輸血用血液の不足状態が継続しているといわれ、今回の献血が少しでもお役に立てることを願っています。

九州学院みどり幼稚園

幼稚園での学び

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長　新垣　力

1日中ただ遊んで過ごしているように見えても、子どもたちは本当にさまざまなことを幼稚園の生活で学んでいます。「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として3つの資質・能力、10の姿といった内容が示されていますが、今回は、それとは別に、皆さんの心にもきっと響くのではないかと私が思うエッセイの一部を紹介します。みどり幼稚園の職員は、このエッセイにある言葉を胸に刻み、日々子どもたちと向き合っています。

●

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいか、本当に知っていなくてはならないことを全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場にうまっていたのである。

何でもみんなで分け合うこと。

ずるをしないこと。

人をぶたないこと。

人のものに手を出さないこと。

誰かを傷つけたら「ごめんなさい」と言うこと。

使ったものは必ずもとのところに戻すこと。

ちらかしたら自分で後片づけをすること。

・・・中略・・・

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。

おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、離れ離れにならないようにすること。

●

ロバートフルガム著「人生で必要な知恵は全て幼稚園の砂場で学んだ」より

あくまでも「幼稚園」という場面設定ですが、一つひとつを私たち大人に例えてみても人としての生き方に何らかの形で触れることができると思います。

「ずるをしない。人をぶたない。人のものに手を出さない。」誰かを傷つけたら「ごめんなさい」とあやまること。といったことを園児は毎日の生活で学びます。また、園の敷地を出たら必ず手をつなぐのは、自分の安全も友だちの安全も確保し、自分が道に迷わないようにするとともに、友だちも迷わせないようにするためです。大人の世界は複雑なので、園児の世界と同じ感覚で論じると笑われるでしょうが、お互いの安全を保障し合い、お互いが道を誤らないよう手を取り合うべきで、「暴力や破壊で本当の幸せを手に入れることなどできない。」と本当はみんなが分かっているのではないでしょうか。





九中コーナー

中学2年生　充実した研修旅行

11月4日㈫～7日㈮、広島・関西方面への研修旅行を3泊4日で実施しました。

初日は広島平和記念公園にて平和学習を行いました。資料館で被爆資料などを見学し、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶことができました。また、熊本から持参した千羽鶴を奉納し、平和への祈りを捧げました。

2日目は京都市内で自主研修を行いました。事前に立てた計画をもとに観光名所を巡ったり家族へお土産を買ったりと、各班充実した内容でした。

3日目は奈良公園を訪れ、奈良公園内、南大門、東大門の見学を行い、歴史・文化について理解を深めることができました。午後はカップヌードルミュージアムを訪れ、発明・発見の素晴らしさを学びました。また、オリジナルラーメン作りも楽しそうに取り組んでいました。

最終日はユニバーサルスタジオジャパンへ行きました。アトラクションに乗ったり、買い物をしたりと友人同士とても楽しんでいる様子でした。







4日間を通して天候にも恵まれ、体調不良者も一人も出ることなく無事研修を終えることができました。歴史や文化、風土に触れながら、集団行動や集団生活を通して、クラスや学年の仲間意識、規範・協同・奉仕の精神を学ぶとても良い機会となりました。

ハーモニーフェスティバルを実施

～美しい歌声がチャペルに響く～

11月20日㈭、今年度も授業参観を兼ねたハーモニーフェスティバル（合唱コンクール）を行いました。本番まで授業や休み時間、放課後などを使いクラス一丸となって熟心に練習をしている姿が見られました。当日も多数の保護者の方が見守る中、心を一つに素晴らしい歌声をチャペルに響かせました。保護者の皆様には学年ごとの観覧にご協力いただきありがとうございました。





（中学校）学友会活動成績

（9月1日～12月31日）

剣道部

第41回熊本市中学生学年別剣道選手権大会（9月6日）
〈城南総合スポーツセンター〉
▽2年の部
1位　坂本　皇志（2年）
3位　森　雄々士（2年）
3位　福岡　亮馬（2年）
▽1年の部
1位　田之上剣大（1年）
2位　福島　颯希（1年）
3位　飯盖　龍水（1年）
▽女子1年の部
3位　坂本　望風（1年）
2位　中司　優衣（1年）

第51回菊池十八外城攻防少年剣道大会（10月13日）
〈菊池市総合体育館〉
▽団体　1、2位

第63回県下中学校剣道大会（新人戦）（10月19日）
〈菊池市総合体育館〉
▽団体　2位

第19回熊本神泉会旗・合志市剣道連盟会長杯争奪九州選抜少年剣道錬成大会（11月23日）
〈合志市総合センターヴィーブル〉
▽団体　2位

第40回若鷲旗剣道大会（12月28日）
〈兵庫県立武道館〉
▽団体　3位

柔道部

県下中学生新人柔道錬成大会（10月25・26日）
〈山鹿市総合体育館〉
▽男子団体　1位
【男子個人】
▽73kg級
3位　松本　琉生（2年）
▽90kg級
1位　前田　就重（2年）
3位　岡本　隼虎（2年）
▽90kg超級
1位　福嶋　左宥（2年）

空手道部

第20回熊本県中学生空手道新人大会兼第20回全国中学生空手道選抜大会（12月7日）
〈天草市民センター〉
▽1年生男子個人形
2位　江頭　禾惟（1年）
▽2年生男子個人形
1位　下村　大惺（2年）
▽2年生女子個人組手
3位　神山　雅泉（2年）

水泳部

第57回九州ジュニア水泳競技大会（9月20・21日）
〈SAGAサンライズパークSAGAアクア〉
【男子】（13～15歳）
▽100m平泳ぎ
7位　坂井　皇太（2年）
▽200m平泳ぎ
4位　坂井　皇太（2年）
【女子】（13～15歳）
▽200m自由形
6位　津志田乃瑛（2年）
▽400m自由形
3位　津志田乃瑛（2年）

熊本県秋季選手権水泳競技大会（10月11・12日）
〈アクアドームくまもと〉
【男子】（クラスB）
▽100m自由形
8位　木村　由聖（2年）
▽200m自由形
2位　木村　由聖（2年）
▽400m自由形
2位　木村　由聖（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　坂井　皇太（2年）
▽200m個人メドレー
3位　坂井　皇太（2年）
【女子】（クラスB）
▽50m自由形
2位　津志田乃瑛（2年）
▽200m自由形
2位　津志田乃瑛（2年）
▽400m自由形
2位　津志田乃瑛（2年）

第38回熊本県スイミングクラブ協会水泳競技大会（12月13・14日）
〈アクアドームくまもと〉
【男子】（13～14歳）
▽100m自由形
5位　木村　由聖（2年）
▽200m自由形
2位　木村　由聖（2年）
▽50m平泳ぎ
1位　坂井　皇太（2年）
▽100m平泳ぎ
1位　坂井　皇太（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　坂井　皇太（2年）
▽100mバタフライ
5位　木村　由聖（2年）
【女子】（13～14歳）
▽50m自由形
3位　津志田乃瑛（2年）
▽100m自由形
3位　津志田乃瑛（2年）
▽200m自由形
2位　津志田乃瑛（2年）

弓道部

第33回熊本県中学生新人弓道大会（11月30日）
〈南部総合スポーツセンター〉
▽男子団体　2位
▽男子個人2年生の部
1位　河村　鴻虎（2年）
▽女子個人1年生の部
1位　山下　凛乃（1年）
2位　千代永真来（1年）
▽男子個人1年生の部
2位　鈴木　雄大（1年）

学友会活動成績（9月1日～12月31日）

柔道部

県下高校柔道大会（10月11・12日）〈山鹿市総合体育館〉
▽男子団体　1位
▽女子団体　1位
【男子個人】
▽66kg級
1位　岩尾　颯真（1年）
▽73kg級
2位　下村　修平（2年）
▽81kg級
3位　三澤　絢人（1年）
▽90kg級
2位　増田　幸大（1年）
3位　平山　雄盛（1年）
▽100kg級
1位　東　大遼（2年）
2位　高橋　治守（2年）
▽100kg超級
1位　楠本　夢人（2年）
【女子個人】
▽52kg級
2位　野住はるか（2年）
▽63kg級
1位　吉永　衣織（1年）
3位　田頭　柚葉（1年）
▽78kg級
1位　石橋　菜々（2年）

第29回九州高等学校新人柔道大会（11月15・16日）〈長崎県諫早市小野体育館〉
▽男子団体　5位
▽女子団体　3位
【男子個人】
▽66kg級
3位　岩尾　颯真（1年）
▽73kg級
〈ベスト8〉　下村　修平（2年）
▽100kg級
〈ベスト8〉　東　大遼（2年）
▽100kg超級
3位　楠本　夢人（2年）
【女子個人】
▽52kg級
〈ベスト8〉　野住はるか（2年）
▽63kg級
2位　吉永　衣織（1年）
▽78kg級
3位　石橋　菜々（2年）

剣道部

第44回県下高等学校学年別剣道選手権大会（9月7日）〈山鹿市総合体育館〉
▽2年の部
1位　石橋　智紀（2年）
2位　石田　琢真（2年）
3位　田村　悠善（2年）
3位　池嶋　優（2年）
▽1年の部
1位　落合　瞳真（1年）
3位　宮里　兼心（1年）
3位　井手　琥陽（1年）

第3回全国高校選抜剣道錬成大会（10月25日）〈日環アリーナ栃木〉
▽団体　1位

第4回福岡大学長旗高等学校選抜剣道大会（10月26日）〈福岡大学第二記念会堂〉
▽団体　3位

熊本県下高等学校新人剣道大会兼第40回九州高等学校選抜剣道大会県予選会（11月8・9日）〈山鹿市総合体育館〉
▽団体　1位
▽個人
1位　石橋　智紀（2年）
3位　田村　悠善（2年）

第26回青龍旗高校剣道大会（12月20日）〈菊陽町総合体育館〉
▽団体　1位

第42回若潮杯争奪武道大会剣道大会（12月26日）〈千葉県国際武道大学〉
▽団体　3位

空手道部

熊本県高等学校空手道新人大会（10月17～19日）〈文徳高校〉
▽男子団体形の部　1位
▽男子団体組手の部5人制
3位　下村　大翔（2年）
▽女子団体組手の部3人制
1位　下村　大翔（2年）
2位　神山　紀仁（1年）
▽形
1位　下村　大翔（2年）
2位　神山　紀仁（1年）
【男子個人】
▽組手-61kg級
2位　大場　悠太（2年）
▽組手-68kg級
2位　下村　大翔（2年）
4位　泉田　憧哉（2年）
【女子個人】
▽組手-48kg級
3位　松田　帆加（2年）
▽組手-66kg級
3位　古賀　理咲（1年）

第45回全九州高等学校空手道新人大会（12月19～21日）〈長崎県立総合体育館〉
▽男子団体組手（5人制）
九州北ブロック　3位
▽男子個人形
九州北ブロック
3位　下村　大翔（2年）
▽男子個人組手-61kg級
3位　大場　悠太（2年）
▽男子個人組手-68kg級
3位　下村　大翔（2年）
▽女子個人
1位　久保田紗央（1年）

弓道部

熊本県高等学校弓道競技大会（10月4・5日）〈八代市弓道場〉
▽女子団体　1位
▽男子団体　2位
▽女子個人
1位　久保田紗央（1年）

第33回九州高等学校弓道新人選手権大会（11月1・2日）〈博多の森弓道場〉
▽男子団体　ベスト8

第44回全国高等学校弓道選抜大会県予選会（11月8・9日）〈熊本市植木弓道場〉
▽男子団体　1位
▽男子個人
3位　冨永　雄矢（1年）

第44回全国高等学校弓道選抜大会（12月23～25日）〈静岡県武道館〉
▽男子団体　ベスト16

水泳部

第79回国民スポーツ大会（9月13～15日）〈滋賀県インフロニア草津アクアティクスセンター〉
▽男子800mフリーリレー
6位　藤原・藤本・藤本・福味
（第87回末弘杯）全九州高等学校選手権新人水泳競技大会（9月27・28日）〈福岡市立総合西市民プール〉
【男子】
▽100m自由形
4位　藤本　拓真（2年）
▽200m自由形
2位　藤本　拓真（2年）
▽400m自由形
7位　福田　悠雅（1年）
▽200m背泳ぎ
6位　中村　英太（2年）
▽200mバタフライ
5位　福本　琉偉（2年）
7位　松岡　華冬（1年）
▽200m個人メドレー
4位　松島　瑞（2年）
7位　内田　匠（2年）
▽400m個人メドレー
6位　松島　瑞（2年）
▽4×100mメドレーリレー
6位
【女子】
▽100m自由形
6位　鳥井あいら（1年）
▽200m自由形
4位　鳥井あいら（1年）
▽100m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽100m自由形
2位　福味　昂一（3年）
▽200m自由形
1位　藤原　琉誠（3年）
▽200m背泳ぎ
4位　中村　英太（2年）
▽200mバタフライ
5位　松永　蒼生（3年）
8位　福本　琉偉（2年）
▽200m個人メドレー
3位　内田　匠（2年）
8位　津地　佑星（1年）
【女子】（クラスC）
▽50m自由形
2位　奥村　柚奈（3年）
5位　鳥井あいら（1年）
▽400m自由形
1位　中村つばさ（3年）
5位　鳥井あいら（1年）
▽200m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽100m平泳ぎ
6位　石川　史乃（1年）
▽200m個人メドレー
4位　大田　朱莉（2年）
▽100m自由形
6位　福田　悠雅（1年）
▽100m背泳ぎ
4位　中村　英太（2年）
▽200m背泳ぎ
2位　中村　英太（2年）
▽100m平泳ぎ
7位　坂井　優日（2年）
▽200m平泳ぎ
2位　松島　瑞（2年）
3位　坂井　優日（2年）
7位　木下　柊（1年）
▽100mバタフライ
4位　松永　蒼生（3年）
6位　福本　琉偉（2年）
▽200mバタフライ
2位　松永　蒼生（3年）
4位　福本　琉偉（2年）
▽200m個人メドレー
2位　内田　匠（2年）
3位　松島　瑞（2年）
4位　津地　佑星（1年）
【女子】（15歳以上）
▽50m自由形
1位　中村つばさ（3年）
6位　鳥井あいら（1年）
▽100m自由形
1位　中村つばさ（3年）
5位　鳥井あいら（1年）
6位　奥村レイサ（1年）
▽200m自由形
1位　中村つばさ（3年）
3位　奥村レイサ（1年）
5位　鳥井あいら（1年）
7位　石川　史乃（1年）
▽100m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽100mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200m個人メドレー
4位　大田　朱莉（2年）

熊本県秋季選手権水泳競技大会（10月11・12日）〈アクアドームくまもと〉
【男子】（クラスC）
▽50m自由形
2位　福味　昂一（3年）
▽100m自由形
1位　藤原　琉誠（3年）
▽200m自由形
1位　藤原　琉誠（3年）
▽100m背泳ぎ
4位　中村　英太（2年）
▽200m背泳ぎ
2位　中村　英太（2年）
▽100m平泳ぎ
7位　坂井　優日（2年）
▽200m平泳ぎ
2位　松島　瑞（2年）
3位　坂井　優日（2年）
7位　木下　柊（1年）
▽100mバタフライ
4位　松永　蒼生（3年）
6位　福本　琉偉（2年）
▽200mバタフライ
2位　松永　蒼生（3年）
4位　福本　琉偉（2年）
▽200m個人メドレー
2位　内田　匠（2年）
3位　松島　瑞（2年）
【女子】（15歳以上）
▽50m自由形
1位　中村つばさ（3年）
6位　鳥井あいら（1年）
▽100m自由形
1位　中村つばさ（3年）
5位　鳥井あいら（1年）
6位　奥村レイサ（1年）
▽200m自由形
1位　中村つばさ（3年）
3位　奥村レイサ（1年）
5位　鳥井あいら（1年）
7位　石川　史乃（1年）
▽100m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽100mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200m個人メドレー
4位　大田　朱莉（2年）

第38回熊本県スイミングクラブ協会水泳競技大会（12月13・14日）〈アクアドームくまもと〉
【男子】（15歳以上）
▽100m自由形
1位　藤本　拓真（2年）
7位　内田　匠（2年）
▽200m自由形
1位　藤本　拓真（2年）
6位　福田　悠雅（1年）
▽100m背泳ぎ
4位　中村　英太（2年）
▽200m背泳ぎ
2位　中村　英太（2年）
▽100m平泳ぎ
7位　坂井　優日（2年）
▽200m平泳ぎ
2位　松島　瑞（2年）
3位　坂井　優日（2年）
7位　木下　柊（1年）
▽100mバタフライ
4位　松永　蒼生（3年）
6位　福本　琉偉（2年）
▽200mバタフライ
2位　松永　蒼生（3年）
4位　福本　琉偉（2年）
▽200m個人メドレー
2位　内田　匠（2年）
3位　松島　瑞（2年）
【女子】（15歳以上）
▽50m自由形
1位　中村つばさ（3年）
6位　鳥井あいら（1年）
▽100m自由形
1位　中村つばさ（3年）
5位　鳥井あいら（1年）
6位　奥村レイサ（1年）
▽200m自由形
1位　中村つばさ（3年）
3位　奥村レイサ（1年）
5位　鳥井あいら（1年）
7位　石川　史乃（1年）
▽100m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽200m平泳ぎ
1位　大田　朱莉（2年）
▽100mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200mバタフライ
1位　中村つばさ（3年）
▽200m個人メドレー
4位　大田　朱莉（2年）

第78回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ）熊本県予選（10月25・26日、11月1・2日）〈菊陽町総合体育館ほか〉
1位
第78回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ）（12月23～29日）〈東京体育館〉
ベスト16

自転車競技部

第79回国民スポーツ大会（9月21～25日）〈京都向日町競輪場〉
▽1kmタイムトライアル
3位　岩崎　太誠（3年）
▽女子スプリント
8位　安達　心晴（3年）

おおいたクリテリウム甲子園（10月4日）〈大分いこいの道周辺特設コース〉
▽クリテリウム
1位　福永　岳（1年）

2025年日韓高校対抗自転車競技大会（10月27～29日）〈仁川国際ベロドローム〉
▽女子チームパーシュート
1位　安達　心晴（3年）
▽女子オムニアム
4位　安達　心晴（3年）

熊本県高等学校自転車競技新人大会（10月25・26日）〈熊本競輪場〉
▽スプリント
1位　前川　櫂里（1年）
▽1kmタイムトライアル
1位　前川　櫂里（1年）
▽ケイリン
1位　前川　櫂里（1年）
▽3kmインディヴィデュアルパーシュート
1位　前川　櫂里（1年）
▽ポイントレース
1位　福永　岳（1年）

競輪甲子園2025自転車競技大会（11月1・2日）〈福島県いわき平競輪場〉
▽ケイリン
3位　前川　櫂里（1年）
▽ケイリン
4位　正木　颯人（1年）
▽個人総合
3位　前川　櫂里（1年）
5位　正木　颯人（1年）

全九州高等学校自転車競技新人大会（11月23・24日）〈別府競輪場〉
▽ケイリン
1位　正木　颯人（1年）
▽スプリント
3位　前川　櫂里（1年）

陸上競技部

第43回全九州高等学校陸上競技新人対校選手権大会熊本県予選大会（9月12～14日）〈えがお健康スタジアム〉
【男子】
▽200m
3位　入江　璃旺（2年）
▽400m
2位　南條　健人（1年）
▽1500m
3位　冨田　蒼輝（1年）
▽5000m
3位　近藤　優羽（2年）
▽110mH
1位　吉良創太郎（2年）
2位　永野　宏弥（2年）
▽400mH
1位　吉良創太郎（2年）
2位　永野　宏弥（2年）
▽3000mSC
5位　水本　優翔（1年）
▽4×100mR
3位　永野・入江・城戸・吉良
▽4×400mR
1位　瀬川・永野・南條・吉良
【女子】
▽100m
1位　大石　桜（1年）
▽200m
1位　大石　桜（1年）
▽400m
1位　岡村　空（2年）
▽800m
4位　岡村　空（2年）
▽100mH
5位　岡村　空（2年）
6位　野田　一花（1年）
▽4×400mR
3位　岡村・大石・植野・野田
▽走幅跳
5位　愛甲まゆり（1年）
▽男子総合の部　2位
▽女子総合の部　3位
▽男子トラックの部　1位
▽女子トラックの部　2位

第4回奥球磨駅伝競走大会（10月5日）〈多良木町役場発着〉
▽高校の部
1位　田中・杉山・門間・渕上・近藤・新立・中川
▽第3区区間
1位　門間　蒼大（3年）

全九州高等学校陸上競技新人対校選手権大会熊本県予選大会（9月12～14日）〈えがお健康スタジアム〉
【男子】
▽200m
3位　入江　璃旺（2年）
▽400m
2位　南條　健人（1年）
▽1500m
3位　冨田　蒼輝（1年）
▽5000m
2位　渕上　颯大（2年）
▽5000m
3位　近藤　優羽（2年）
▽110mH
1位　吉良創太郎（2年）
2位　永野　宏弥（2年）
▽400mH
1位　吉良創太郎（2年）
2位　永野　宏弥（2年）
▽3000mSC
5位　水本　優翔（1年）
▽4×100mR
3位　永野・入江・城戸・吉良
▽4×400mR
1位　瀬川・永野・南條・吉良

バドミントン部

熊本県高等学校新人バドミントン大会（10月25・26日）〈玉名市総合体育館〉
▽男子団体　3位
▽スプリント
3位　前川　櫂里（1年）

全九州高等学校総合体育大会第43回全九州高等学校新人陸上競技大会（10月10～12日）〈沖縄県総合運動公園陸上競技場〉
▽女子100m
1位　大石　桜（1年）
▽女子200m
4位　大石　桜（1年）
▽女子400mH
6位　植野紗代子（2年）
▽女子トラックの部　7位

熊本県高等学校総合体育大会第78回熊本県高等学校駅伝競走大会（11月1日）〈えがお健康スタジアム発着〉
1位　田中・坂井・久保・門間・新立・中川・渕上
▽第1区区間
1位　田中　允紳（2年）
▽第3区区間
1位　久保　和寛（2年）
▽第4区区間
1位　門間　蒼大（3年）
▽第5区区間
1位　新立　峻（3年）
▽第6区区間
1位　中川　陽琉（3年）

第4回熊本県チャレンジ陸上大会（11月15日）〈えがお健康スタジアム〉
【男子一般・高校】
▽5000m
1位　森口慎之典（3年）
3位　溝辺　煌心（1年）
4位　宮川　慶史（3年）
5位　米村　和真（1年）
6位　冨田　蒼輝（1年）
▽4×100mR
4位　永野・入江・城戸・吉良
【女子一般・高校】
▽100m
6位　野田　一花（1年）
▽800m
1位　岡村　空（2年）
▽車椅子100m
1位　原　かのん（2年）
▽4×100mR
4位　愛甲・野田・大原・植野

全九州高等学校体育大会男子第78回全九州高等学校駅伝競走大会（11月15日）〈嘉麻市嘉穂総合運動公園周辺コース〉
2位　久保・洞口・渕上・山崎・近藤・新立・永本

第78回熊本市中長距離陸上競技選手権大会（11月22日）〈えがお健康スタジアム〉
▽男子高校5000m
4位　渕上　颯大（2年）
▽女子2部車いす100m
1位　原　かのん（2年）
▽女子2部車いす400m
2位　原　かのん（2年）

第50回熊本甲佐10マイル公認ロードレース記念大会（12月7日）
▽10km高校男子の部
2位　洞口稟太郎（3年）

チアダンス部

第25回全日本チアダンス選手権大会2025九州予選大会（9月27日）〈福岡市総合体育館〉
▽高校生編成Pom部門Small
2位

第25回全日本チアダンス選手権大会2025（12月1日）〈東京体育館〉
▽高校生編成Pom部門Small
2位

吹奏楽部

第51回熊本県アンサンブルコンテスト（12月7日）〈御船町カルチャーセンター〉
▽打楽器四重奏　銀

棋道愛好会

第34回全国高等学校文化連盟将棋新人大会熊本県大会（11月15日）〈水前寺共済会館グレーシア〉
▽個人
3位　森下　大輝（1年）

吟詠剣詩舞（個人）

第36回郷土芸能代表選考会及び吟詠剣詩舞発表会（12月16日）〈ウイング松橋〉
▽第38回県総文祭・第50回全国総文祭出場（推薦）
本田すみれ（2年）